

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

ESGデータ集

会社基本情報	210
環境データ	212
社会性データ	234
ガバナンスデータ	239

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

会社基本情報

GRI102-2 GRI102-3 GRI102-7

会社概要

設立	1933年12月26日
本社所在地	神奈川県横浜市西区高島一丁目1番1号
事業内容	日産グループは、日産自動車株式会社とその子会社、関連会社等で構成されています。自動車およびその部品の製造・販売を主な事業内容としており、さらに同事業に関連する「物流」「金融」をはじめとした各種サービス活動を展開しています。
ブランド	ニッサン、インフィニティ、ダットサン
連結従業員数 (2020年3月末時点)	136,134人
グローバル拠点 (2020年3月末時点)	<p>研究開発拠点：17市場 (日本、米国、メキシコ、英国、スペイン、ベルギー、ドイツ、ロシア、中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、インド、南アフリカ、ブラジル、アルゼンチンに計47カ所)</p> <p>デザイン拠点：7市場 (日本、米国、英国、中国、ブラジル、タイ、インドに計8カ所)</p> <p>車両生産拠点：18市場、34拠点 (OEMからの供給(ルノー、三菱自動車、ふそう、スズキなど)は含まない)</p>

財務データ

(億円)

	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	119,512	115,742	98,789
営業利益	5,748	3,182	▲ 405
経常利益	7,503	5,465	440
税金等調整前当期純利益	7,107	4,777	▲ 5,730
親会社株主に帰属する当期純利益	7,469	3,191	▲ 6,712
設備投資	4,854	5,099	5,092
減価償却費	3,842	3,778	3,729
研究開発費	4,958	5,231	5,448

財務データに関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-6 | GRI102-7

グローバル販売台数および生産台数

(千台)

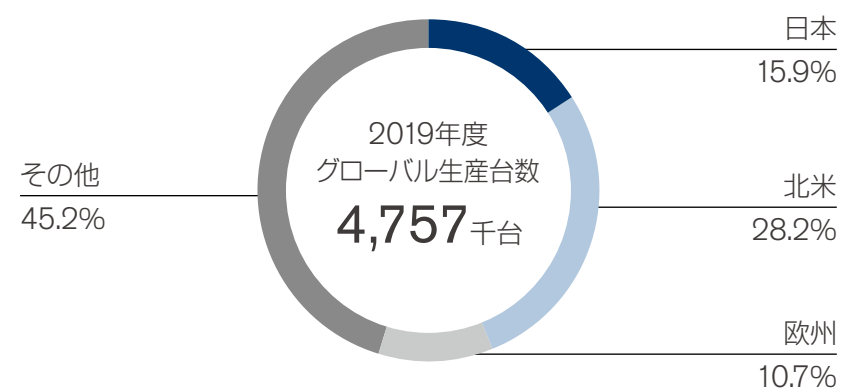
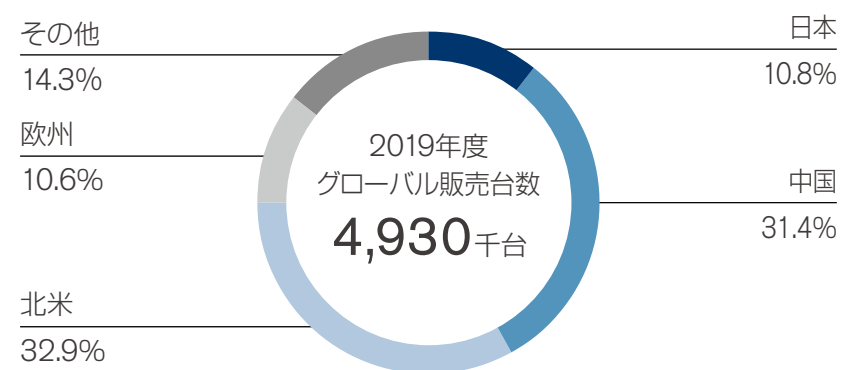
	2017年度	2018年度	2019年度
グローバル販売台数	5,770	5,516	4,930
日本	584	596	534
中国	1,520	1,564	1,547
北米	2,091	1,897	1,620
欧州	756	643	521
その他	819	816	708

(千台)

	2017年度	2018年度	2019年度
グローバル生産台数	5,672	5,362	4,757
日本	986	901	758
北米	1,694	1,587	1,340
欧州	777	661	508
その他	2,215	2,213	2,151

財務データに関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/IR/>



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

環境データ

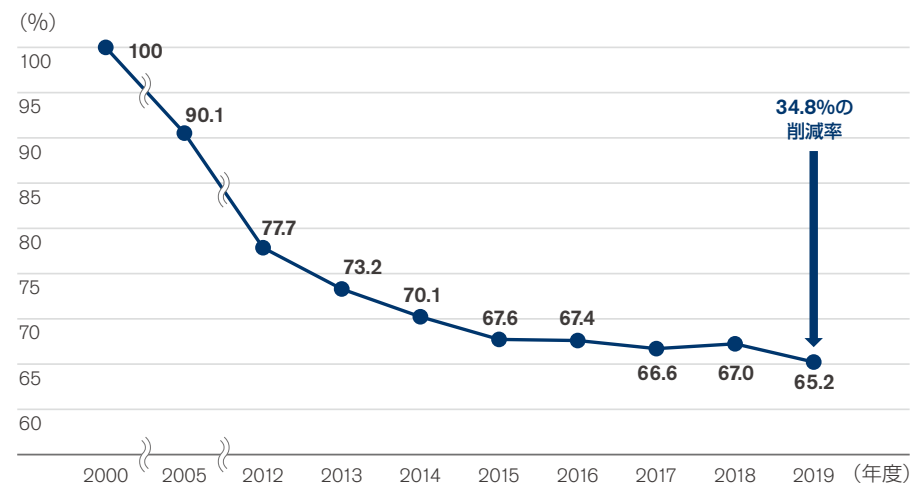
気候変動(製品)	212
気候変動(企業活動)	216
大気品質	223
資源依存(再利用)	225
資源依存(拠点の廃棄物)	226
水資源の管理	228
環境課題を踏まえた事業基盤の強化	230
マテリアルバランス	232
環境保全コスト	233

* 欧州拠点のCO₂、VOC、廃棄物、水の2019年度実績値に関しては、推計値を採用（2020年7月時点）

GRI302-5

気候変動(製品)

新車からのCO₂排出量削減率(グローバル)*

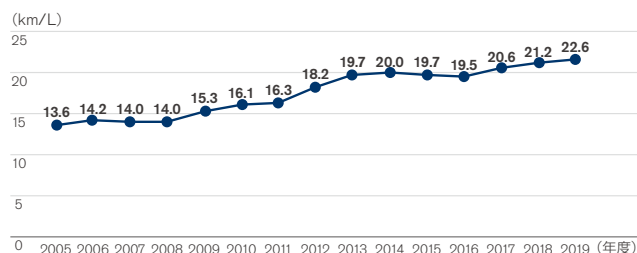


2019年度、日産の主要な市場である日本、米国、欧州、中国におけるCO₂排出量は企業平均燃費ベースで2000年度に比べ34.8%改善しました。特に中国でEV車の導入拡大や燃費の向上により、2018年度に比べて改善しました。

* CO₂削減率は社内規定の方法で算出しています

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

日本における企業平均燃費 (CAFE、JC08モード)

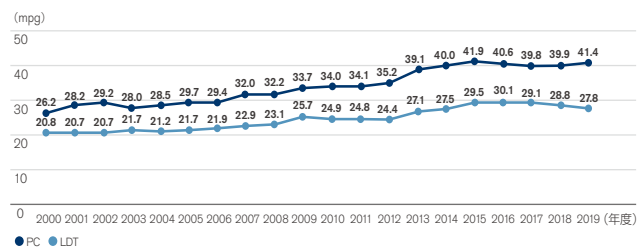


2019年度の日本における企業平均燃費は、22.6km/Lとなりました。これは、「セレナ

e-POWER] や新型「デイズ」の好調な販売が貢献しており、2018年度に比べて7%の改善を達成しました。

* 社内で算出した暫定値を使用しています

米国における企業平均燃費 (CAFE)

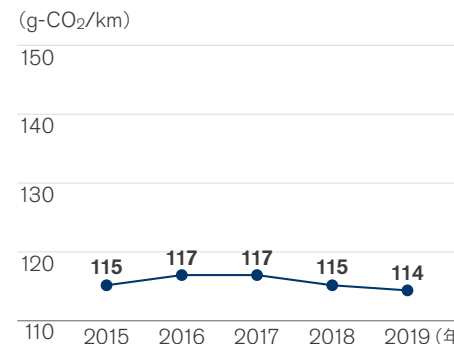


2019年度の米国における乗用車の企業平均燃費は41.4mpgとなり、2018年度に比べて4% 向上しました。

小型トラックのセグメントにおいては重量の比較的高いモデルの販売増によって、企業平均燃費は28.8mpg から27.8mpg に3% 悪化しました。

2018年分の届出値変更に伴い、PC 39.8 →39.9mpg、LDT 28.5 →28.8mpg へそれぞれ変更しました。

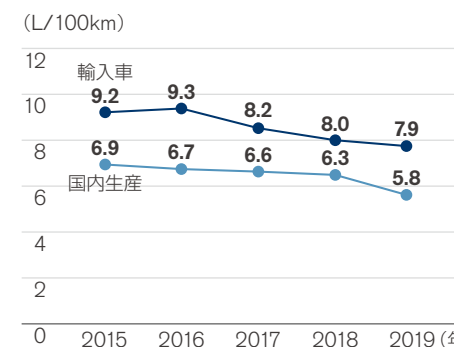
欧州における車両平均CO₂排出量*



2019年の欧州における車両平均CO₂ 排出量は、EV 構成比の増加と重量車の構成比の減少により、1g 改善しました。

* データ再集計により、2018年の値を更新しました。

中国における企業平均燃料消費量



2019年は国内生産分の燃費は約8%改善、輸入車の燃費が1%改善しました。国内生産分についてはEV車の導入拡大や燃費の向上によるものです。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

売上高、グローバル販売台数および生産台数データ

(億円)			(千台)			(千台)		
	2018年度	2019年度		2018年度	2019年度		2018年度	2019年度
売上高*1	129,687	112,176	グローバル販売台数*2	5,516	4,930	グローバル生産台数*2	5,362	4,757
			日本	596	534	日本	901	758
			北米	1,897	1,620	北米*3	1,587	1,340
			欧州	643	521	欧州*4	661	508
			アジア	1,888	1,821	アジア*5	2,046	1,991
			その他	492	434	その他*6	167	160

*1 中国合弁会社比例連結ベース

*2 グローバル販売台数およびグローバル生産台数の中国・台湾については、1 - 12月ベースの数字

*3 米国、メキシコの生産台数

*4 英国、スペイン、ロシア、フランスの生産台数

*5 台湾、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、インド、韓国の生産台数

*6 南アフリカ、ブラジル、エジプト、アルゼンチンの生産台数

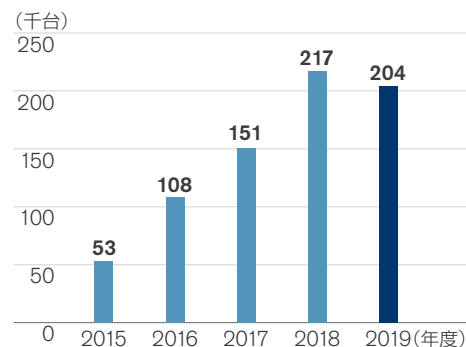
パワートレイン比率（出荷台数ベース）

	単位	ガソリン車	ディーゼル車	e-POWER車	電気自動車	ハイブリッド車	天然ガス車
日本	%	63.7	2.4	21.5	3.2	9.2	0.1
北米	%	98.7	0.4	0	0.9	0.1	0
欧州	%	67.7	24.1	0	8.2	0	0
その他	%	91.3	7.4	0	0.8	0.5	0
グローバル	%	87.8	6.4	2.5	1.9	1.3	0

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

EV

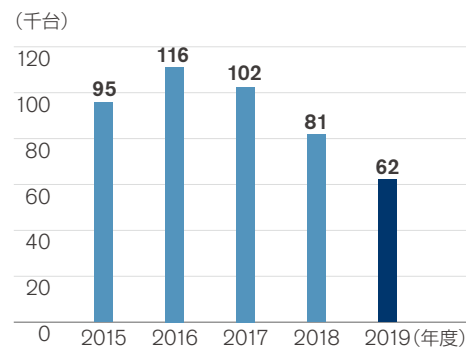
100%EVおよび「e-POWER」販売台数*



* 中国合弁会社による販売台数を含む

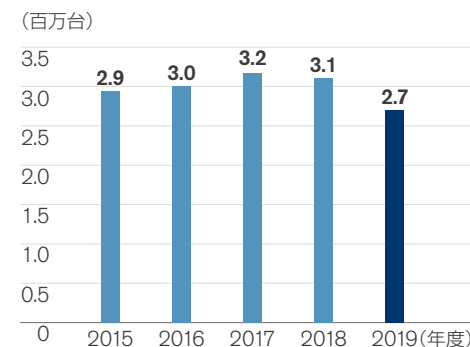
ハイブリッド車

ハイブリッド車台数 (出荷台数ベース)



エクストロニックCVT*搭載車

エクストロニックCVT搭載車販売台数



* CVT : Continuously Variable Transmission (無段変速機)

2019年度のCVT搭載車の販売台数は270万台で、累計販売台数は2,970万台となりました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI305-1 GRI305-2 GRI305-4 GRI305-5

気候変動（企業活動）

エネルギー投入量

（年度）

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	MWh	9,683,528	10,189,082	9,532,840	9,252,737	8,443,465
地域別						
日本	MWh	4,115,353	4,497,562	4,084,912	3,700,532	3,522,281
北米	MWh	2,583,613	2,643,303	2,452,299	2,570,438	2,269,797
欧州	MWh	1,107,279	1,093,103	1,126,186	1,048,201	838,714
その他	MWh	1,877,283	1,955,115	1,869,443	1,933,566	1,812,673
エネルギー源別						
一次エネルギー						
天然ガス	MWh	3,346,141	3,537,674	3,701,640	3,579,998	3,126,933
LPG	MWh	303,826	249,426	179,945	191,405	175,996
コークス	MWh	206,307	217,431	218,618	200,527	172,500
灯油	MWh	188,943	209,232	147,522	113,200	91,315
ガソリン	MWh	302,564	303,040	299,000	259,045	241,010
軽油	MWh	55,099	57,488	48,259	53,074	23,044
重油	MWh	34,289	43,853	27,652	15,995	16,287

（年度）

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
敷地外						
電力（購入）	MWh	4,979,114	5,247,663	4,755,897	4,711,467	4,445,380
うち再生可能エネルギー*1	MWh	141,076	157,226	133,212	135,574	153,773
冷水	MWh	12,116	12,919	6,661	7,487	7,025
温水	MWh	4,630	4,690	5,000	5,000	5,000
蒸気	MWh	100,000	136,593	128,038	102,324	126,811
敷地内						
電力（自家発電）	MWh	9,423	11,847	14,609	13,214	12,164
うち再生可能エネルギー*2	MWh	9,423	11,847	14,609	13,214	12,164
うち再生可能エネルギー総量	MWh	150,499	169,073	147,821	148,788	165,937

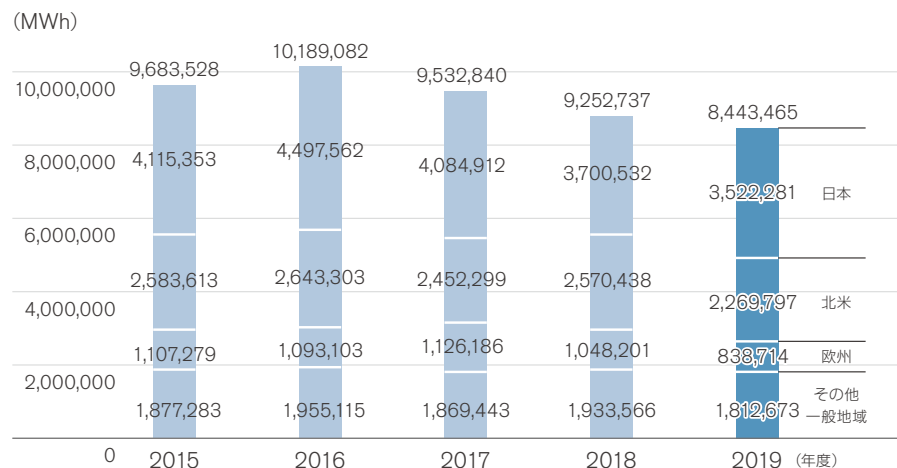
*1 日産が購入した電力における再生可能エネルギー量

*2 日産が拠点内で発電し自社で消費した再生可能エネルギー量

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI302-1 GRI302-3 GRI302-4

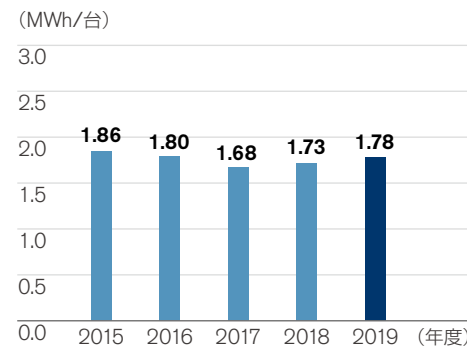
エネルギー投入量推移



2019年度の日産のグローバル企業活動における総エネルギー使用量は約8,443千MWhとなり、2018年度に比べ、9%の減少になりました。各拠点の省エネルギー活動の推進と生産台数の減少が主な要因です。生産過程におけるエネルギー使用量は7,486千MWhでした*。

* KPMG あずさサステナビリティ株式会社により保証を受けています。詳細はこちらをご覧ください
[>>> P100](#)

エネルギー消費量（生産台数当たり）



2019年度の生産台数当たりのエネルギー消費量は1.78MWhとなり、2018年度より3.3%増加しました。

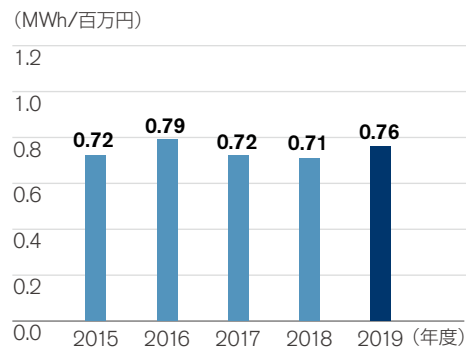
日本の数値には、海外で組み立てて使用するパワートレインや他の部品の製造を含みます。分母の数はそれぞれの地域で製造された生産台数であるため、数値が高くなる場合があります。

地域別	単位	2019
日本	MWh/台	4.70
北米	MWh/台	1.69
欧州	MWh/台	1.65
その他	MWh/台	0.84

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI302-1 GRI302-3 GRI302-4

エネルギー消費量（売上高当たり）



2019年度の売上高当たりのエネルギー消費量は0.76MWhとなり、2018年度と比較し、20%の増加となりました。企業として経済成長がエネルギー使用に及ぼす影響を最小化する取り組みを継続しています。

企業活動におけるカーボンフットプリント

(年度)

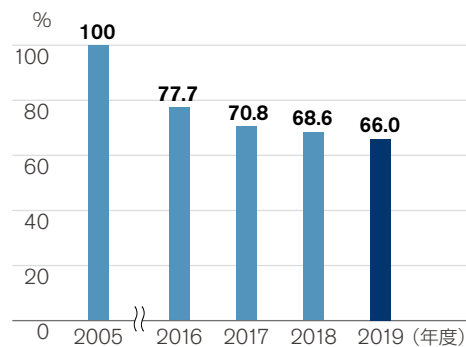
	単位	2015	2016	2017	2018	2019
スコープ1	t-CO ₂	926,790	963,661	912,476	889,444	765,370
スコープ2	t-CO ₂	2,547,951	2,614,028	2,394,109	2,339,883	2,173,236
スコープ1と2	t-CO ₂	3,474,741	3,577,689	3,306,584	3,229,327	2,938,606
日本	t-CO ₂	1,479,572	1,579,089	1,333,335	1,208,303	1,142,233
北米	t-CO ₂	800,724	823,340	683,332	738,234	607,605
欧州	t-CO ₂	208,088	176,285	228,998	221,692	182,973
その他	t-CO ₂	986,359	998,976	1,060,920	1,061,098	1,005,794
スコープ3	t-CO ₂	144,145,000	150,462,000	213,715,000	203,106,900	173,138,601

2019年度のグローバル拠点からのCO₂排出量は、スコープ1とスコープ2の合計で2,939千トンとなりました。生産過程におけるCO₂排出量は2,408千トン（スコープ1排出量670千トン、スコープ2排出量1,738千トン）になりました*。

* KPMG あずさサステナビリティ株式会社により保証を受けています。詳細はこちらをご覧ください
[>>> P100](#)

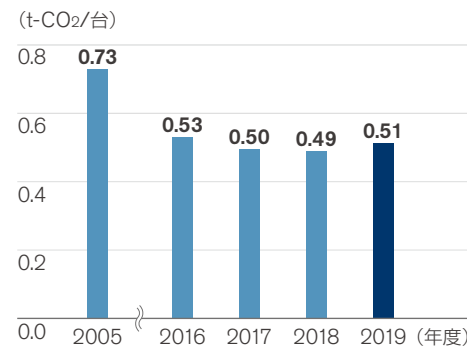
目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

企業活動からのCO₂排出量（グローバル販売台数当たり）



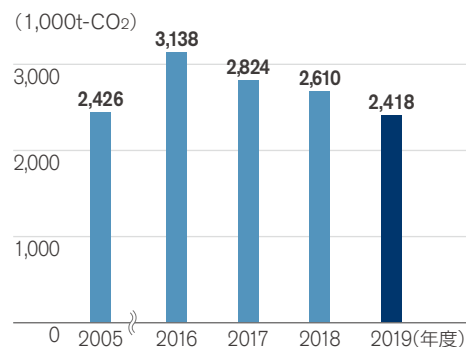
2019年度は、企業活動に伴うCO₂排出量が2005年度に比べ34.0%の削減となり、2022年の目標達成に向けて順調に推移しています。

生産活動からのCO₂排出量（生産台数当たり）

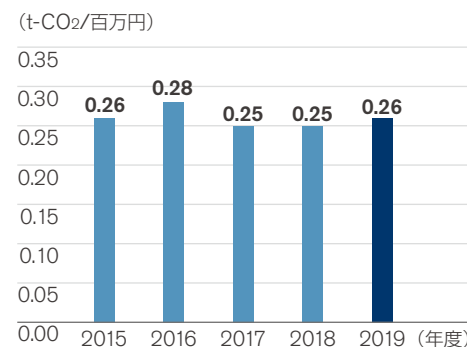


2019年度のグローバル生産台数当たりのCO₂排出量は0.51トンとなり、2005年度比で30.1%の削減率を達成しました。

生産活動におけるカーボンフットプリント



スコープ1と2のCO₂排出量（売上高当たり）



2019年度のグローバル拠点からの売上高100万円当たりのCO₂排出量は0.26トンとなりました。

*2018年の値を修正しました

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

輸送量

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	百万tonkm	35,546	39,930	35,635	34,903	28,288
インバウンド	百万tonkm	11,221	10,634	9,699	10,164	8,083
アウトバウンド	百万tonkm	24,325	29,296	25,935	24,739	20,205

海上	%	60.1	60.9	57.6	60.9	63.8
トラック	%	26.5	24.8	25.9	23.3	23.0
鉄道	%	13.0	14.0	16.1	14.9	12.7
航空	%	0.3	0.4	0.4	0.9	0.6

2019年度はグローバル輸送量が前年比で約19%減少し、283億トンキロとなりました。海外向け部品の航空輸送の削減や中国・北米での生産台数減による完成車の輸送量低減が主な要因です。

物流からのCO₂排出量

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	t-CO ₂	1,598,891	1,926,477	1,567,248	1,482,982	1,144,338
インバウンド*	t-CO ₂	797,034	809,088	739,610	762,314	582,957
アウトバウンド*	t-CO ₂	801,857	1,117,389	827,638	720,667	561,381

海上	%	18.3	17.8	20.0	19.9	21.1
トラック	%	65.7	62.1	64.6	60.3	64.1
鉄道	%	5.4	5.6	7.0	6.7	5.9
航空	%	10.6	14.5	8.4	13.1	8.9

* インバウンドには部品調達・KD（現地組み立て用）部品の輸送が、アウトバウンドには完成車・サービス部品の輸送がそれぞれ含まれます

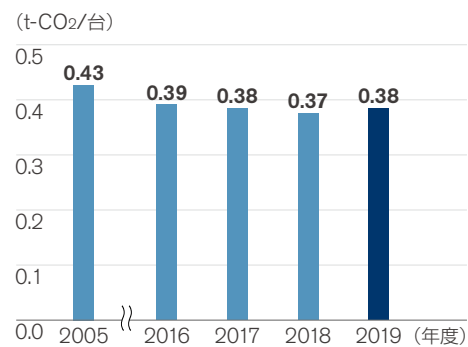
* 再集計し、2016年の排出量を訂正しました

2019年度の物流からのCO₂排出量は約23%減少し、114万4,338トンとなりました。海外向け部品の航空輸送の削減や中国・北米での生産台数減による完成車の輸送量が低減し、CO₂排出量が大きく削減しました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI305-3

物流からのCO₂排出量（輸送台数当たり）



2019年度は、輸送台数当たりのCO₂排出量は0.38トンとなりました。

カテゴリー別のスコープ3 排出量

「温室効果ガス (GHG) 報告ガイドライン」に基づいた試算を行った結果、日産のスコープ3からのCO₂排出量の約90%は、製品であるクルマの使用によるものでした。

項目	単位	2019
1. 購入した製品・サービス	kt-CO ₂	15,620
2. 資本財	kt-CO ₂	994
3. 燃料およびエネルギー関連活動	kt-CO ₂	358
4. 輸送、配送（上流）	kt-CO ₂	583
5. 事業から出る廃棄物	kt-CO ₂	171
6. 出張	kt-CO ₂	221
7. 雇用者の通勤	kt-CO ₂	238*
8. リース資産（上流）	kt-CO ₂	0
9. 輸送、配送（下流）	kt-CO ₂	760
10. 販売した製品の加工	kt-CO ₂	8
11. 販売した製品の使用	kt-CO ₂	153,428*
12. 販売した製品の廃棄	kt-CO ₂	369
13. リース資産（下流）	kt-CO ₂	389
14. フランチャイズ	kt-CO ₂	0
15. 投資	kt-CO ₂	0
合計		173,139

* KPMG あずさサステナビリティ株式会社により保証を受けています。詳細はこちらをご覧ください

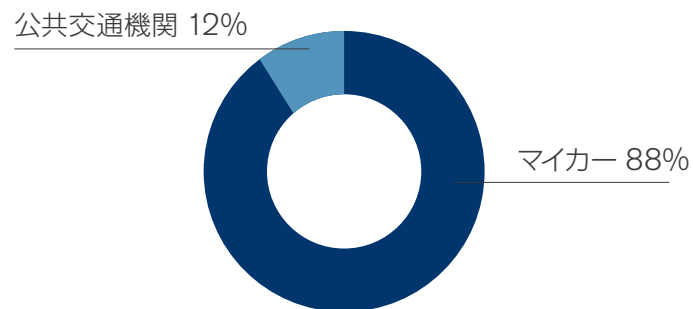
[>>> P100](#)

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

カーボンクレジット

欧州における排出権取引において、日産モトール・イベリカ会社（スペイン：バルセロナ、カンタブリア）の生産拠点が対象となっています。2019年度に認証を受けたクレジット量は3万8,845トンとなりました。

通勤からのCO₂排出量



日本では2013年度、マイカー通勤をしている全従業員を対象に、CO₂削減プログラムを導入し、エンジン搭載車から電気自動車への乗り換えを促進しています。2019年度のマイカー通勤によるCO₂排出量はおよそ2万8,000トン*で、1台当たりの排出量は年間2.6トンです。

*自動車認証データおよび以下の条件に基づいて算出
 日本における自動車での通勤距離の平均：年間9,227km/台
 ガソリン車のCO₂排出係数（日本国温室効果ガスインベントリ報告書2009）：0.33 kgCO₂e/km
 電力のCO₂排出係数（東京電力株式会社（2018年度））：0.000455t-CO₂/kWh
 日本の事業所および製造工場の従業員が対象（2019年度）

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI305-7

大気品質

エミッション

2019年度に生産拠点から排出されたNO_x、SO_xの量はそれぞれ380トン、14トンになりました。2019年度は全体の生産量減少に伴い、NO_x、SO_xとも減少しています。

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
窒素酸化物 (NO _x)	ton	450	430	619	418	380
硫黄酸化物 (SO _x)	ton	37	31	36	34	14

揮発性有機化合物 (VOC) 排出量

2019年度のVOC総排出量は6,465トンとなり、2018年度より減少となりました。水系塗料、VOC含有率の低い物質への切り替えなどの活動を継続しています。

(年度)

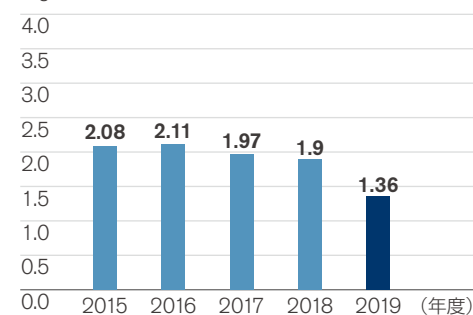
	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	ton	10,820	11,933	10,564	8,433	6,465

日本	ton	2,850	3,580	3,232	2,188	2,016
北米	ton	5,309	4,851	4,284	3,847	3,135
欧州	ton	2,661	3,502	3,048	2,397	1,315

*再集計を実施し、2017年、2018年の排出量を訂正しました。

VOC 排出量 (生産台数当たり)

(kg/台)



2019年度の生産台数当たりのVOC排出量は1.36kgとなりました。

(年度)

地域別	単位	2019
日本	kg/台	2.66
北米	kg/台	2.34
欧州	kg/台	2.59

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

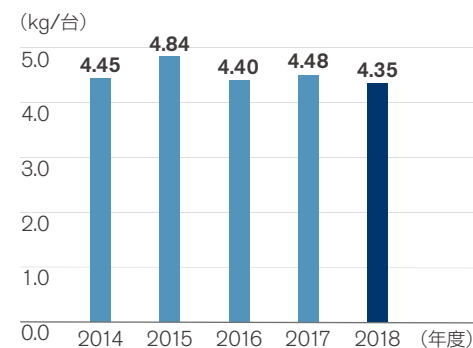
PRTR 対象物質排出量 * (日本)

2018年度の化学物質排出移動量届出制度 (PRTR : Pollutant Release and Transfer Register) 対象物質の排出量は3,914トンで、2017年度に比べて減少となりました。

	単位	2014	2015	2016	2017	2018
国内拠点合計	ton	3,879	4,129	4,472	4,422	3,914
追浜工場	ton	402	488	872	796	715
栃木工場	ton	1,317	1,435	1,179	920	655
日産自動車九州株式会社	ton	1,152	1,173	1,406	1,697	1,573
横浜工場	ton	547	531	545	559	539
いわき工場	ton	114	132	144	62	54
日産テクニカルセンター	ton	347	370	325	388	378

* 日本のPRTRのガイドラインに基づいて算出。PRTR取扱量から製造品としての搬出量を除いた総排出量

PRTR 対象物質排出量 (生産台数当たり / 日本)



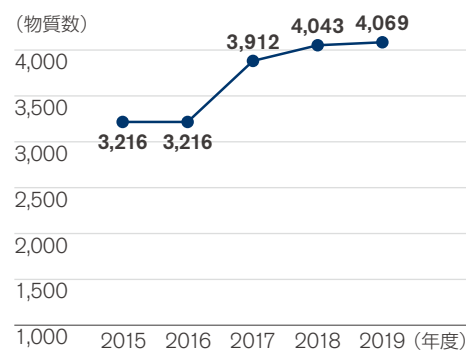
2018年度の生産台数当たりのPRTR 対象物質排出量は4.35kgとなり、2017年度に比べ減少となりました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI301-2 GRI301-3

資源依存(再利用)

化学物質の適正な利用



これは将来のリペア、リユース、リビルト、リサイクルといった資源の循環に必要な取り組みと考えています。

* 化学物質のガバナンスに関する詳細は以下のページをご覧ください

[>>> P102](#)

クルマでの再生樹脂の利用

日産はクルマへの再生樹脂の使用拡大を技術開発も含め取り組んでいます。2019年度は、日産車1台に使用する樹脂のうち再生樹脂の割合は11%となりました。この実績は欧州における最量販車をもとに算出しています。

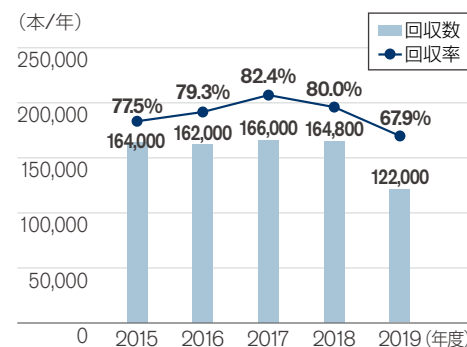
シュレッダーダストの最終処分率

日本の自動車リサイクル法に基づいてリサイクル率向上に取り組む拠点が増えた結果、使用済み自動車(ELV)より鉄類および非鉄金属を除いた自動車シュレッダーダスト(ASR)の最終処分率は、2019年度もゼロを達成しました。

材料比率

日産車に使用する材料は、重量比で鉄61%、非鉄12%、樹脂15%、その他13%(2019年実績)で構成されています。日産は、天然資源使用量をさらに低減するため、それぞれの材料に関し再生材の使用拡大に向けた取り組みを進めています。

バンパー回収本数推移



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI306-2

資源依存 (拠点の廃棄物)

廃棄物発生量

2019年度にグローバルに発生した廃棄物の量は18万8,556トンとなり、2018年度の20万6,645トンより微減となりました。

2019年度の生産工場の廃棄物発生量は18万4,573トン*となりました。

* KPMG あずさサステナビリティ株式会社により保証を受けています。詳細はこちらをご覧ください

[>>> P100](#)

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	ton	159,345	158,939	152,674	206,645	188,556

地域別内訳

日本	ton	63,630	61,115	61,327	69,829	63,315
北米	ton	49,129	45,459	35,177	64,514	57,762
欧州	ton	37,204	41,110	45,268	49,662	48,187
その他	ton	9,382	11,255	10,903	22,639	19,291

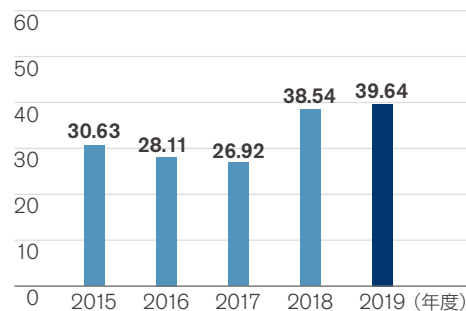
処理方法別内訳

廃棄物 最終処分量	ton	11,355	8,707	8,041	7,231	6,414
リサイクル量	ton	147,990	150,231	144,633	199,414	182,141

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

廃棄物発生量（生産台数当たり）

(kg/台)



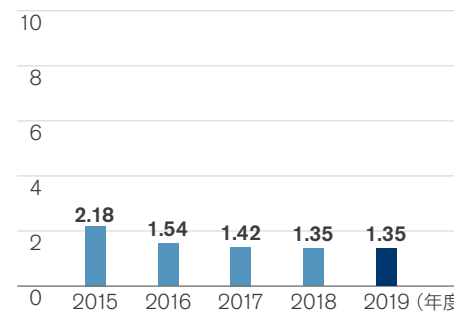
2019年度の生産台数当たりの廃棄物発生量は39.64kgに増加しました。

(年度)

地域別	単位	2019
日本	kg/台	83.53
北米	kg/台	43.11
欧州	kg/台	94.86
その他	kg/台	8.97

廃棄物最終処分量（生産台数当たり）

(kg/台)



2019年度の生産台数当たりの廃棄物最終処分量は1.35kgとなり、2018年度と同程度になりました。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI303-1 GRI303-3 GRI303-4

水資源の管理

企業活動での取水量

2019年度の企業活動における取水量は23,714 千m³となり、2018年度より10%の減少となりました。また、生産工場の取水量は22,613,338m³*でした。

* KPMG あずさサステナビリティ株式会社により保証を受けています。詳細はこちらをご覧ください
[>>> P100](#)

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	1,000m ³	28,570	29,118	26,197	26,420	23,714
日本	1,000m ³	14,990	15,563	13,115	13,022	11,932
北米	1,000m ³	5,427	5,483	4,905	4,930	4,776
欧州	1,000m ³	2,330	2,299	2,155	2,093	1,798
その他	1,000m ³	5,823	5,774	6,023	6,376	5,207

排水時のクリーン化を徹底

日産の各工場では、廃水処理の徹底を推進しています。

(年度)

	単位	2015	2016	2017	2018	2019
合計	1,000m ³	20,680	20,516	17,410	17,345	15,512
日本	1,000m ³	12,976	12,681	10,376	10,472	9,438
北米	1,000m ³	3,916	4,028	3,382	3,190	2,752
欧州	1,000m ³	1,740	1,767	1,564	1,539	1,528
その他	1,000m ³	2,048	2,040	2,088	2,143	1,794

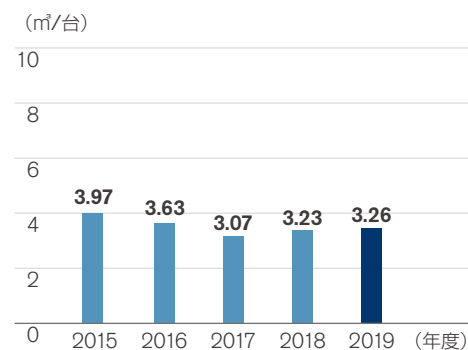
水質

化学的酸素要求量 (COD) 日本のみ	kg	28,042	29,730	26,451	21,149	18,795
---------------------	----	--------	--------	--------	--------	--------

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI303-4 GRI306-1

企業活動での排水量（生産台数当たり）



2019年度の生産台数当たりの排水量は3.26m³となり、2018年度に比べて1%の増加となりました。

(年度)

地域別	単位	2019
日本	m ³ /台	12.45
北米	m ³ /台	2.05
欧州	m ³ /台	3.01
その他	m ³ /台	0.83

日本の数値には、海外で組み立てて使用するパワートレインや他の部品の製造を含みます。分母の数はそれぞれの地域で製造された生産台数であるため、日本の数値が他の地域よりも高くなる場合があります。

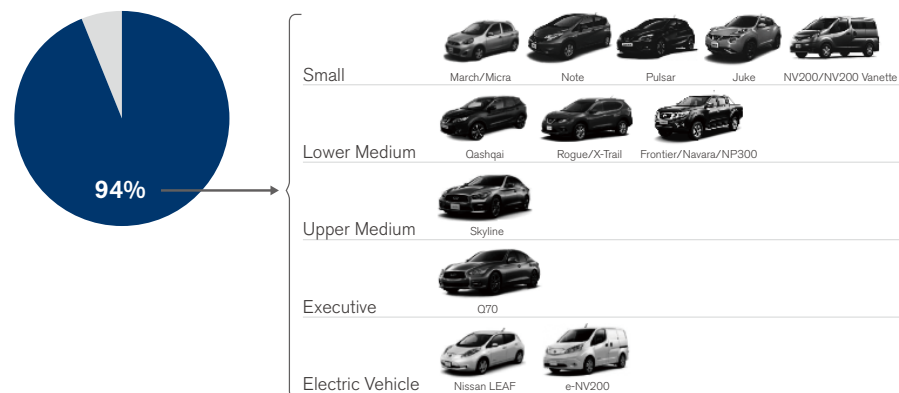
目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

環境課題を踏まえた事業基盤の強化

グローバルトップ販売モデルのLCA改善

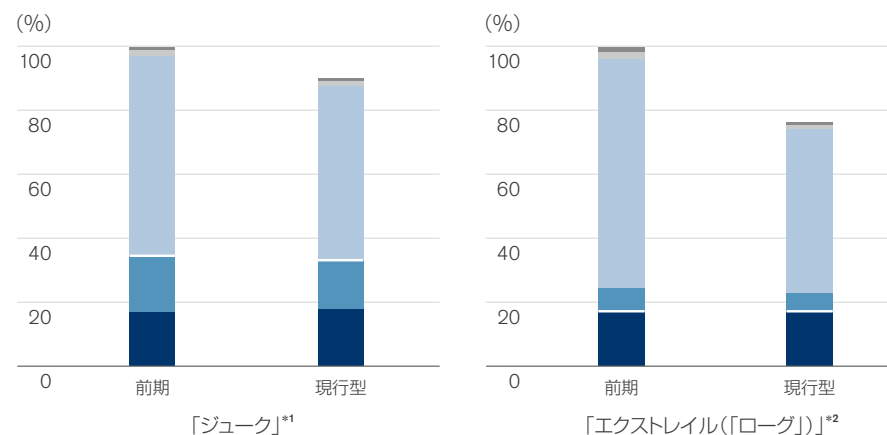
日産はLCA手法の適用を進め、環境負荷の定量的な把握範囲を、影響の大きいグローバルのトップ販売モデルへと広げており、台数ベースでのカバレッジは90%以上に達しています。

EU市場におけるLCA手法の運用比率



「ジューク」「エクストレイル」の例では、内燃機関の効率向上や車両軽量化により、前型よりも安全性を高めつつ、CO₂の排出を削減しています。

ライフサイクルでのCO₂等価排出量 (CO₂、CH₄、N₂O など)



■ 素材・部品・車両製造、物流 ■ 燃料製造・電力製造 ■ 使用 ■ メンテナンス ■ 廃車

*1 欧州生産・走行(15万km)における比較

*2 欧州米国生産・走行(15万km)における比較

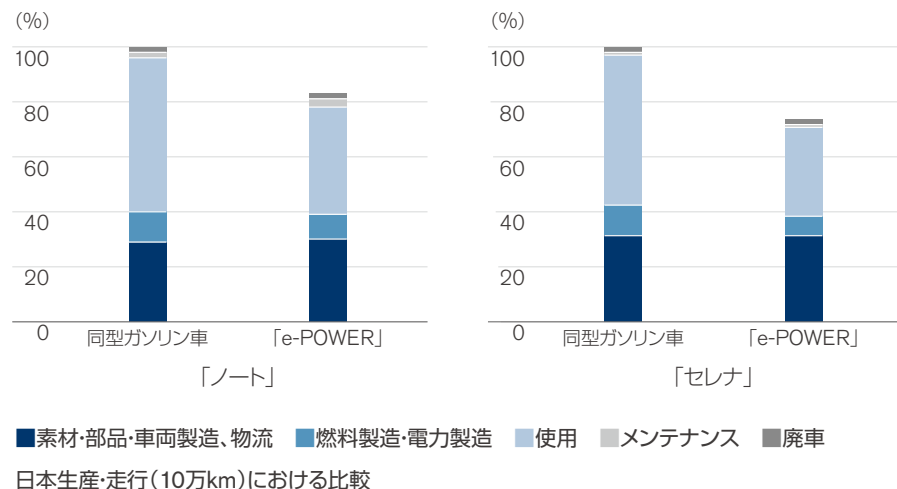
目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

「e-POWER」におけるLCA比較

2016年に新パワートレインの「e-POWER」を投入し、ライフサイクルにおける環境負荷を低減しながら車両の電動化をさらに推進しています。

例えば、「ノート e-POWER」「セレナ e-POWER」では同型のガソリン車と比較してそれぞれ18%、27%以上のCO₂排出の削減を達成しています。

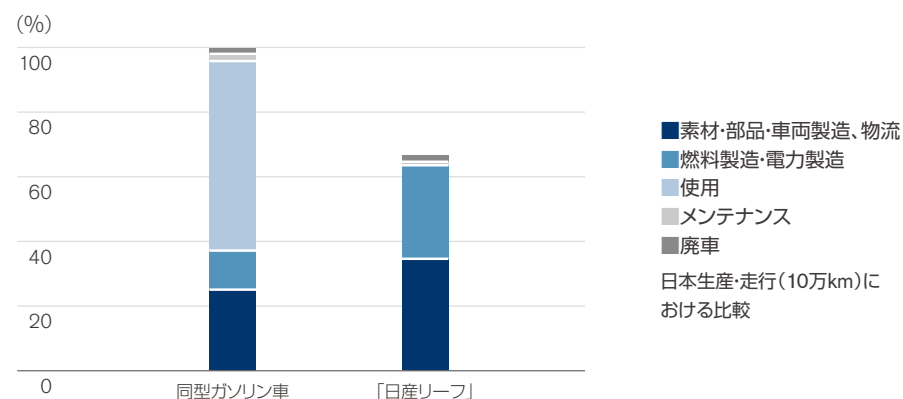
ライフサイクルでのCO₂等価排出量(CO₂、CH₄、N₂Oなど)



新型「日産リーフ」におけるLCA比較

新型「日産リーフ」は日本の同型のガソリン車と比べ、ライフサイクルにおけるCO₂排出量を約32%削減しています。EVの製造段階でのCO₂等価排出量を抑制するために、材料の歩留まりや生産工程の効率向上、さらにリサイクル由来の原材料の活用といった活動を継続して推進しています。

ライフサイクルでのCO₂等価排出量(CO₂、CH₄、N₂Oなど)

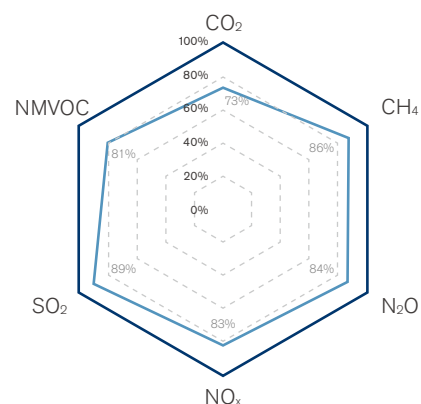


目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI301-1 GRI302-1 GRI303-1 GRI305-1 GRI305-2 GRI305-7 GRI306-1 GRI306-2

ライフサイクル評価における地球温暖化以外の貢献

新型「セレナ e-POWER」のライフサイクル評価



● 従来型
● e-POWER

日本生産・走行(10万km)における比較

大気汚染、海洋酸性化、富栄養化といった社会的懸念が高まることを背景に、日産はLCA評価のスコープを温室効果ガス以外の化学物質へと拡大しています。試算結果によると、「セレナ e-POWER」は現行のガソリンエンジン車と比較し、削減対象とする全化学物質において11~27%の排出量削減をライフサイクルで達成しており、総合的な環境貢献を示す結果を得ることができました。

マテリアルバランス

投入量

	単位	(年度) 2019
原材料	ton	5,818,699
エネルギー	MWh	8,481,499
うち再生可能エネルギー	MWh	154,606
水	1,000m ³	23,714

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

生産量／排出量

(年度)

	単位	2019
車両生産		
グローバル生産台数	千台	4,757
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,962,403
排水量	1,000m ³	15,512
エミッション		
NO _x (窒素酸化物)	ton	380
SO _x (硫黄酸化物)	ton	14
VOC (揮発性有機化合物)	ton	6,465
廃棄物発生量		
リサイクル量	ton	193,229
廃棄物最終処分量	ton	6,914

環境保全コスト

(年度)

	単位	2018		2019	
		投資	コスト	投資	コスト
総額	百万円	3,790	171,245	2,538	183,578
事業エリア内コスト	百万円	20	1,775	15	1,790
上・下流コスト	百万円	0	706	0	639
管理活動コスト	百万円	0	8,041	0	8,973
研究開発コスト	百万円	3,770	160,263	2,523	172,011
社会活動コスト	百万円	0	308	0	146
環境損傷対応コスト	百万円	0	153	0	19

(年度)

	単位	2018	2019
総額	百万円	8,262	6,207
費用削減額	百万円	372	540
収益額	百万円	7,890	5,667

環境保全コストは環境省の「環境会計ガイドライン」に準じて算出され、日本国内の活動分のみを示しています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

社会性データ

GRI102-7 GRI102-8 GRI102-22 GRI102-41 GRI402-1 GRI405-1 GRI405-2

従業員データ

(年度)

		単位	2017	2018	2019
日産自動車(株)					
従業員数		人	22,272	22,791	22,717
	男性	人	19,908	20,269	20,100
	女性		2,364	2,522	2,617
平均年齢		歳	42.5	41.8	41.4
	男性	歳	43.0	42.0	41.8
	女性		38.1	38.2	38.3
勤続年数		年	19.4	18.4	17.7
	男性	年	20.0	18.9	18.1
	女性		14.2	14.3	13.9
離職率*1		%	5.4	6.2	6.6
	自己都合	%	1.3	2.0	3.1
平均年間給与*2		円	8,184,466	8,154,953	8,102,672
障がい者雇用率		%	2.08	2.30	2.22
育児休職取得者数		人	255	380	386
	男性	人	29	40	51
	女性		226	340	335
男性の育児休職取得率*3		%	4	6	5
育児休職復職率		%	95.2	97.3	95.6
	男性	%	100	100	97.2
	女性		94.5	96.7	95.2
介護休業取得者数		人	13	6	7
	男性	人	8	4	3
	女性		5	2	4
年休取得日数		日	19.0	19.0	19.5

年休取得率		%	97	97	99
平均残業時間		時間/月	22.1	23.9	24.16
組合員総数*4		人	25,377	25,789	26,316
管理職:女性人数		人	314	320	325
	女性比率	%	10.7	10.4	10.1
うち部長職以上:女性人数		人	82	79	80
	女性比率	%	8.2	7.6	7.4
執行役員:女性人数		人	2	2	2
	女性比率	%	3.8	4.1	4.1
取締役:女性人数		人	0	1	2
	女性比率	%	-	12.5	16.7
うち社内取締役:女性人数		人	0	0	0
	女性比率	%	-	-	-
うち社外取締役:女性人数		人	0	1	2
	女性比率	%	-	33.3	28.6
監査役:女性人数		人	0	0	1
	女性比率	%	-	-	20
新卒採用		人	684	815	738
	男性	人	558	651	614
	女性		126	164	124

*1 離職率合計には、定年退職者を含む

*2 平均年間給与は賞与および基準外賃金を含む

*3 男性の育児休職取得率=対象年度に育児休職を1日以上取得した男性従業員数÷対象年度に配偶者が出産した男性従業員数

*4 組合員総数には、一般従業員、シニアパートナー/シニア社員(定年退職後の再雇用者)、契約従業員を含む。日産自動車九州(株)を含む

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-7

GRI405-1

連結ベース

(年度)

	単位	2017	2018	2019
連結ベース				
連結従業員数*	人	138,910 ↓ (19,924)	138,893 ↓ (19,240)	136,134 ↓ (22,761)
日本	人	59,431	58,966	58,134
北米	人	36,080	36,594	36,148
欧州	人	16,807	16,119	14,824
アジア	人	20,807	20,872	21,023
その他海外地域	人	5,785	6,342	6,005

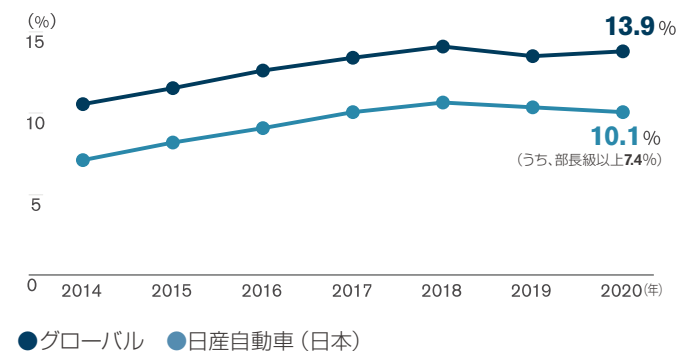
*()内は臨時雇用者数で外数

労働組合の状況

日産自動車株式会社の従業員は日産自動車労働組合に加入し、同組合は全日産・一般業種労働組合連合会を上部団体とし、全日本自動車産業労働組合総連合会を通じ、日本労働組合総連合会に加盟しています。労使関係は安定しており、2020年3月末現在の組合員総数は日産自動車九州を含め2万6,316名です。なお、日本国内のグループ各社においては大半の企業で会社別労働組合が存在し、全日産・一般業種労働組合連合会を上部団体としています。また、海外のグループ各社では、各国の労働法・労働環境に即して、従業員の労働組合選択の権利を尊重しています。

ダイバーシティ&インクルージョン

女性管理職比率の推移



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

これまでの主な外部評価*

年	タイトル	主体団体
2019	「PRIDE 指標」ゴールド受賞	work with Pride
2018	「PRIDE 指標」ゴールド受賞	work with Pride
2017	「PRIDE 指標」ゴールド受賞	work with Pride
2017	Corporate Equality Index で 100 点 (満点) を 5 年連続で達成 *1	Human Rights Campaign (米国)
2017	「えるぼし」第3段階目に認定	厚生労働省神奈川労働局
2017	「なでして銘柄」に5年連続で選定	経済産業省と東京証券取引所グループ共同
2015	「女性活躍パワーアップ大賞」奨励賞受賞	公益財団法人日本生産性本部
2015	「プラチナくるみん」を取得	厚生労働省神奈川労働局
2015	「第15回テレワーク推進賞優秀賞」受賞	一般社団法人日本テレワーク協会
2015	「女性が輝く先進企業表彰 内閣府特命担当大臣賞」受賞	内閣府男女共同参画局
2014	「DiversityInc Top 25 Noteworthy Companies for Diversity & Inclusion」に選定*2	DiversityInc (米国)
2013	ダイバーシティ経営企業100選選定	経済産業省
2013	「2013J-Win ダイバーシティ・アワード」アドバンス部門大賞受賞	NPO 法人 J-Win
2008	「カタリストアワード」受賞	NPO 法人カタリスト (米国)

*米国では上記記載以外にも外部評価受賞あり

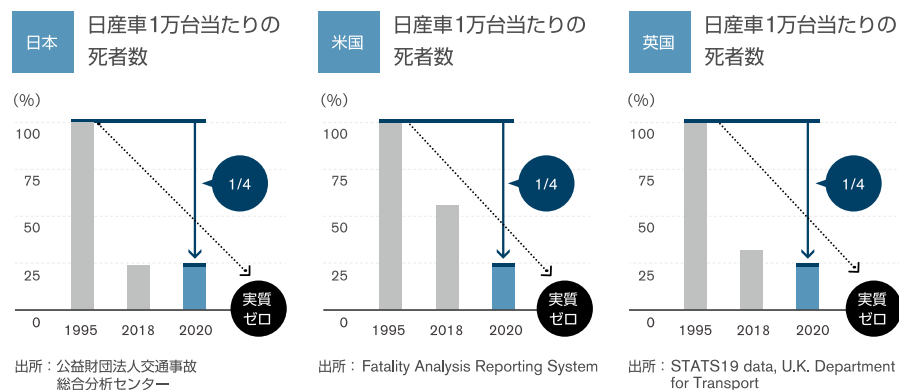
*1、*2 NNAが受賞主体



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

交通安全

日産車1万台当たりの死者数



日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価

2015年1月に「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」の採用車種を拡大し、2015年度末には、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了しました。北米では、「パスファインダー」「アルティマ」「ローグ」などのモデルに標準装備、欧州では「ジューク」「エクストレイル」「キャシュカイ」「マイクラ」などの主要車種に採用しています。

また、各地域で行われている公的機関および政府による試験において、高い安全評価を獲得しています。特に日本では、2019年度より人に対する衝突被害軽減ブレーキの試験（夜間）に街灯のない道路を想定した厳しい条件を

追加したJNCAPの予防安全性能評価において「セレナ」は満点を獲得、「デイズ」は軽自動車で最高得点を獲得しました。また2018年度より開始された国土交通省による衝突被害軽減ブレーキの性能認定制度においても認定車種を増やし、2019年度までに13車種の「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」が認定を受けました。

主な外部安全評価結果(2019年評価分)

地域	外部評価	車種	レーティング
日本	JNCAP*1	衝突安全性能評価	「デイズ」 5★(最高評価)
		予防安全性能評価	「デイズ(軽で最高得点)」「セレナ(満点)」 ASV+++ (最高評価)
		事故自動通報システム機能評価	「デイズ」 SOS+(車載型)
米国	NCAP*2	インフィニティ「QX60」インフィニティ「QX50」「ムラーノ」 「アルティマ」「パスファインダー」「マキシマ」「セントラ」	総合5★ (2020モデルイヤー)
		インフィニティ「QX80」「アルマーダ」 「フロンティア(クレーキャブ)」「ローグ」	総合4★ (2020モデルイヤー)
米国	IIHS*3	「マキシマ」	2020 Top Safety Pick+
		「アルティマ」	2020 Top Safety Pick
欧州	Euro NCAP	「ジューク」	5★
中国	C-NCAP	「シルフィ」	5★

*1 JNCAP: Japan New Car Assessment Program の略。国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)による自動車アセスメントプログラム

*2 NCAP: New Car Assessment Program の略。米国運輸省道路交通安全局(NHTSA: National Highway Traffic Safety Administration)の新車アセスメントプログラム

*3 IIHS: Insurance Institute for Highway Safety の略。米国道路安全保険協会

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

人財育成

日産自動車株式会社の研修実績

(年度)

研修実績にかかわる指標	2017	2018	2019
年間受講人数(人)	171,949	241,674	263,240
総受講時間(時間)	689,536	482,103	590,696
従業員1人当たりの受講時間(時間)	30.6	21.5	26.0
受講満足度(最高点:5.0)	4.2以上	4.2以上	4.2以上
従業員1人当たりの投資(円)	73,000	86,000	90,000

GRI201-1 GRI203-2

地域社会への貢献

2019年度の社会貢献活動の実績

2019年度 グローバル社会貢献支出額: 約16.1 億円

社会貢献支出には以下の費用を含む

- ・社会貢献活動費は社会貢献活動を実施するために支出した経費(労務費は除く)
- ・寄付は社会貢献を目的とした現金寄付および非営利組織の年会費などの支出
- ・現物寄付は金額に換算
- ・スポンサーシップ・その他は社会貢献を目的とした各種イベントなどのスポンサー費

2019年度 グローバル社会貢献支出額(内訳)

	社会貢献活動費	寄付	現物寄付(金額換算値)	スポンサーシップその他	合計
金額(百万円)	549	741	60	264	1,614
比率(%)	34.0	45.9	3.7	16.4	100

	災害名	2019年度実績
自然災害被災地に対する主な支援	台風15号による大規模停電(日本)	<ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車より停電地域で電気自動車「日産リーフ」からの電力供給を行うため、車両53台と可搬型給電器をセットで、自治体や福祉施設などに提供
	台風19号による豪雨被害(日本)	<ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車よりNPOジャパン・プラットフォームに支援金1,000万円を寄付 ・日産自動車従業員による募金を実施、会社が同額を上乗せしてNPOジャパン・プラットフォームに寄付 ・日産自動車より、被災地へ車両計68台を無償貸与、いわき市へ従業員ボランティア派遣(延べ275名) ・日産自動車と販売会社より、「日産リーフ」からの電力供給を行うため、長野市災害ボランティアセンターに車両4台を無償貸与
	火山噴火による被災地支援(フィリピン)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン日産より「ナバラ」3台を寄贈
	新型コロナウイルス対策支援(中国)	<ul style="list-style-type: none"> ・日産自動車、日産(中国)投資有限公司、東風汽車有限公司は、500万円の義援金ならびに10万枚のマスクを寄付
	テネシー州での竜巻による被災地支援(米国)	<ul style="list-style-type: none"> ・北米日産会社より15万USDドルを米国赤十字社に寄付

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

ガバナンスデータ

GRI102-22 GRI405-1

コーポレートガバナンスの概要（2020年3月末時点）

会社組織形態	指名委員会等設置会社
取締役会の議長	独立社外取締役
取締役の人数	12人
うち独立社外取締役	7人
うち女性取締役	2人
指名委員会委員長	独立社外取締役
指名委員会の人数	6人
うち独立社外取締役	5人
うち女性取締役	1人
報酬委員会委員長	独立社外取締役
報酬委員会の人数	4人
うち独立社外取締役	4人
うち女性取締役	2人
監査委員会委員長	独立社外取締役
監査委員会の人数	5人
うち独立社外取締役	4人
うち女性取締役	1人

* コーポレートガバナンスに関する詳細は以下のページをご覧ください。

[>>> P187](#)

2019年度（2019年6月～2020年3月）における取締役会および委員会の出席状況

取締役会		委員会					
		指名委員会		報酬委員会		監査委員会	
取締役会開催総数	開催1回当たりの平均参加率	開催総数	開催1回当たりの平均参加率	開催総数	開催1回当たりの平均参加率	開催総数	開催1回当たりの平均参加率
11回	99%	9回	96%	13回	100%	10回	100%

取締役スキルマトリクス

GRI102-27

取締役構成について

当社の取締役会は、多様な視点を持って経営の基本方針を決定するとともに、執行役などの職務執行を監督する役割を担っています。

取締役会を構成する取締役は、国際性やジェンダーにおける多様性があり、また、各個人が異なる専門性を有しており、全体として活発な議論と迅速な意思決定を実現することを目指しています。また、構成員数の過半数を、独立性を有する社外取締役とし、取締役会の議長も独立性を有する社外取締役とすることで、社外取締役によりけん引される環境を創出しています。2020年2月以降、取締役会は取締役12名で構成されており、そのうち7名が社外取締役となっています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	コーポレートパーパス / ESG特集	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	本レポートの編集方針	GRI内容索引	投資家向け索引

		グローバル マネジメント	自動車業界	政府機関	法務 / リスクマネジメント	ガバナンス	財務 / 会計	CSR	製品 / 技術	セールス / マーケティング
1	木村 康	○				○	○		○	○
2	ジャン ドミニク・スナール	○	○			○	○	○		
3	豊田 正和	○		○	○	○		○		
4	井原 慶子	○	○			○			○	○
5	永井 素夫	○			○	○	○	○		
6	ベルナール・デルマス	○	○			○			○	○
7	アンドリュー・ハウス	○				○	○		○	○
8	ジェニファー・ロジャーズ	○			○	○	○	○		
9	ピエール・フルーリオ	○		○	○	○	○			
10	内田 誠	○	○		○		○		○	
11	アシュワニ・グプタ	○	○				○		○	○
12	坂本 秀行	○	○		○	○			○	

コーポレートガバナンスに関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.nissan-global.com/JP/IR/LIBRARY/GOVERNANCE/>